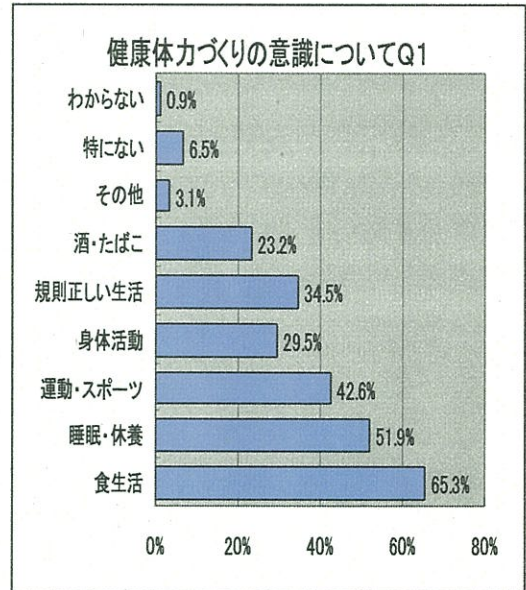


Ⅲ 調査結果(全項目)

1 健康体力づくりについて

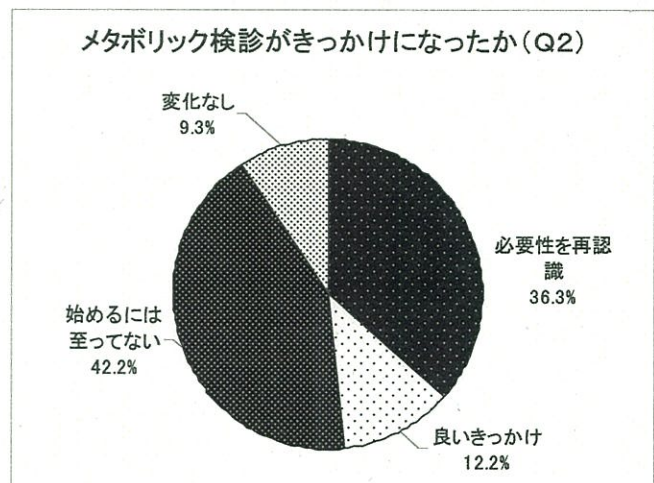
(1) 健康体力づくりの意識について 【Q1】(複数回答)

日ごろ自分の健康や体力の維持増進のため、何か心掛けているか聞いたところ、「食生活に気をつける」との回答が65.3%と最も多く、以下「睡眠や休養をよくとる」(51.9%)、「運動やスポーツをする」(42.6%)、「規則正しい生活をする」(34.5%)の順となっている。



(2) メタボリック検診・指導が運動開始のきっかけになったか【Q2】 (今回新規設問)

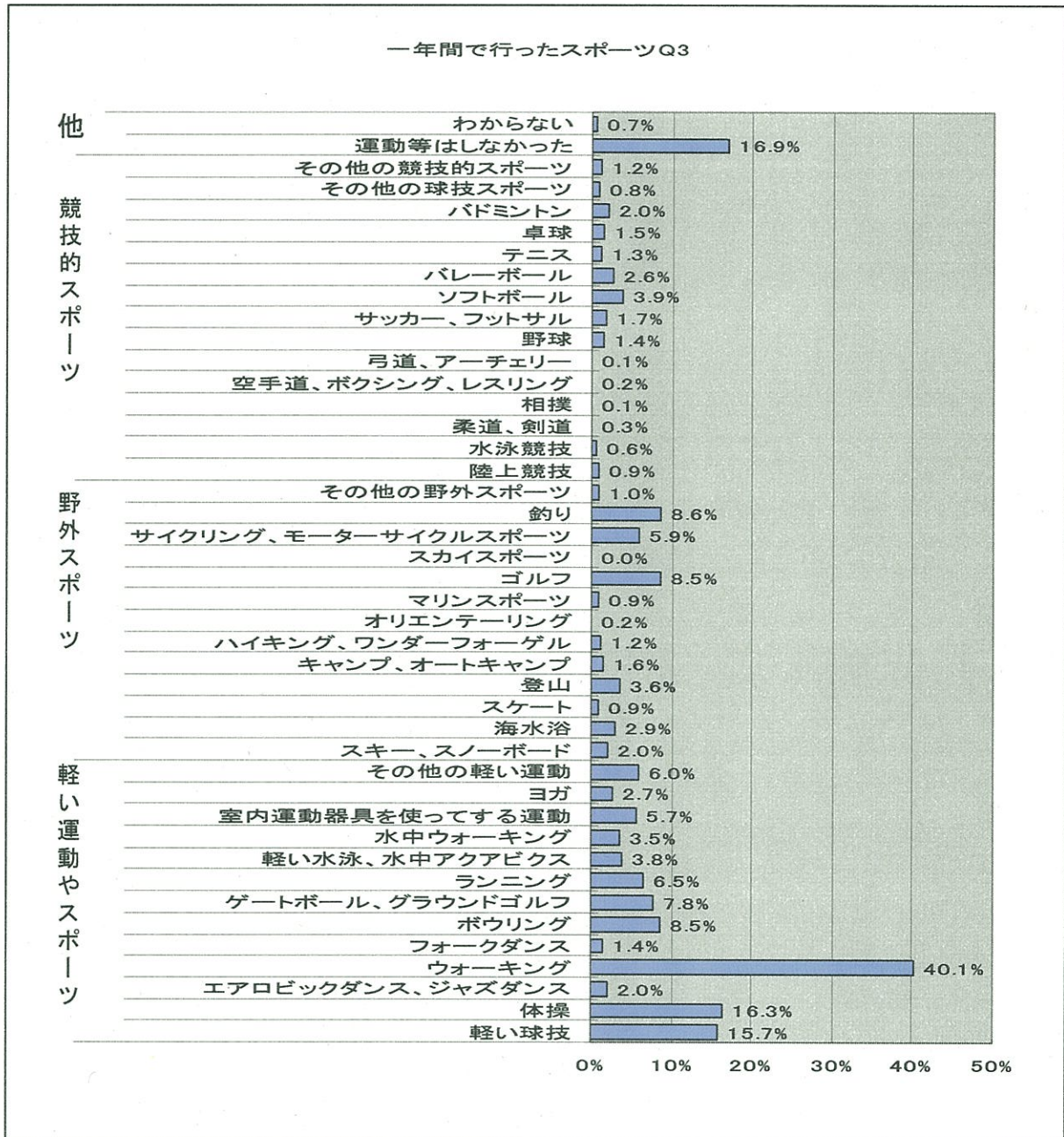
メタボリックシンドロームに着目した「特定健康診査・特定保健指導」制度の開始が運動の必要性を考えるきっかけになったかという問いに対し、「必要性を再認識した」(36.3%)と「良いきっかけとなった」(12.2%)を併せて48.5%が運動の必要性を認識し、運動を開始したり継続したりしている。



2 スポーツの実施状況について

(1) 運動・スポーツの1年間の実施状況 【Q3】(複数回答)

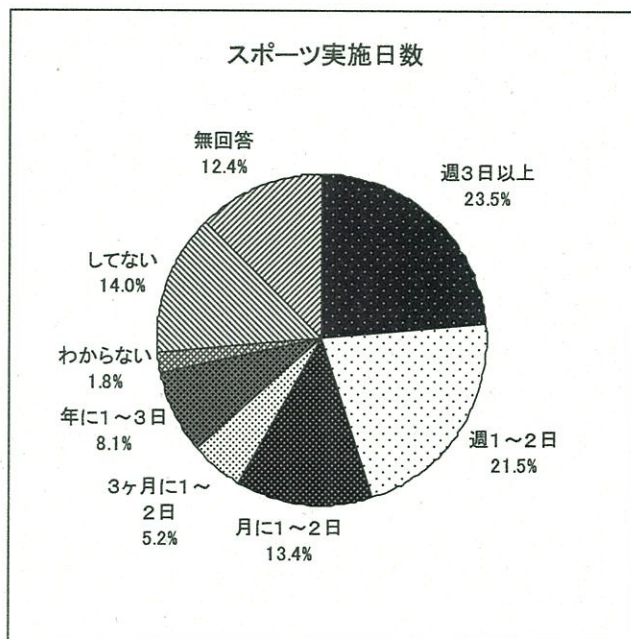
ア この1年間に行った運動・スポーツの種目(1回当たり30分以上)
 この1年間に行った運動・スポーツの種目を尋ねたところ、「ウォーキング(歩け歩け運動、散歩などを含む)」との回答が40.1%と最も多く、以下「体操(ラジオ体操、職場体操、美容体操、縄跳びを含む)」(16.3%)、「軽い球技(キャッチボール、卓球、ドッジボール、バドミントン、テニスなど)」(15.7%)、「釣り」(8.6%)、「ゴルフ」(8.5%)、「ボウリング」(8.5%)などが上位となっている。



イ この1年間に行った運動・スポーツの日数（注）

「週に3日以上」（23.5%）と「週に1～2日」（21.5%）を合わせて、週1回以上スポーツを行う割合【スポーツ実施率】は45.0%となっている。逆に「運動やスポーツはしなかった」は14.0%となっている。

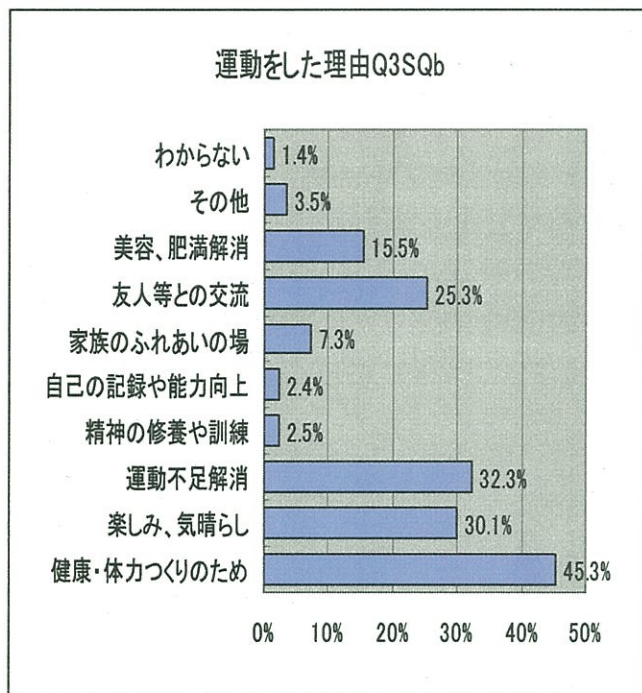
注）この項目の集計に限り、無回答を含むサンプル数に対する比率としている。



（参考）年代別 前々回及び前回調査との対比

年代	平成13年（前々回）		平成18年（前回）		平成21年（今回）			
	実施率	しない割合	実施率	しない割合	実施率	前回との比較	しない割合	
年齢別	20～24	33.6%	4.7%	24.2%	11.3%	29.1%	○4.9%	14.5%
	25～29	35.4%	8.0%	32.4%	14.9%	38.1%	○5.7%	15.5%
	30～34	35.5%	10.1%	32.5%	13.0%	34.2%	○1.7%	21.9%
	35～39	29.5%	6.3%	35.1%	8.5%	42.7%	○7.6%	11.7%
	40～44	35.4%	8.7%	31.6%	20.0%	36.7%	○5.1%	13.3%
	45～49	35.0%	9.7%	34.7%	19.4%	43.9%	○9.2%	20.6%
	50～54	45.7%	10.3%	40.8%	19.7%	48.3%	○7.5%	14.6%
	55～59	50.9%	4.8%	41.0%	22.4%	53.0%	○12.0%	13.8%
	60～64	51.5%	7.2%	50.7%	18.7%	53.6%	○2.9%	13.7%
	65～69	47.8%	8.0%	41.1%	16.6%	55.8%	○14.7%	7.7%
70以上	45.4%	8.4%	40.0%	17.0%	41.8%	○1.8%	11.4%	

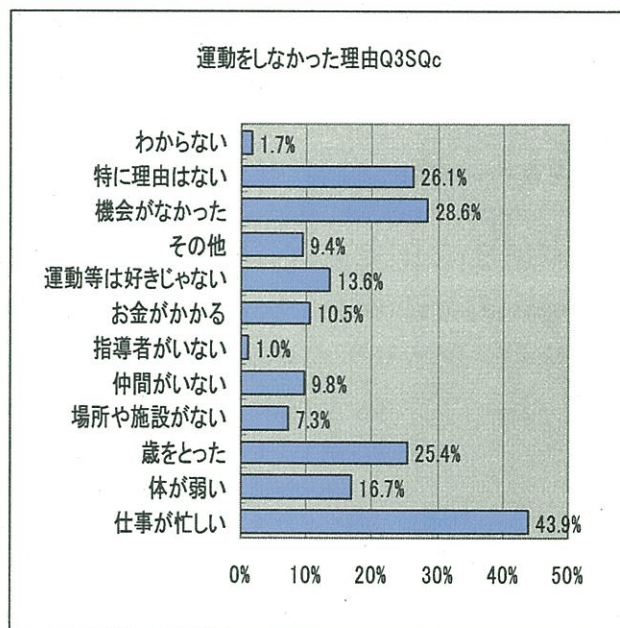
ウ 運動・スポーツを行った理由（複数回答）



運動・スポーツを行った人に対して運動をした理由を聞いたところ、「健康・体力づくりのため」との回答が45.3%と最も多く、以下「運動不足を感じるから」(32.3%)、「楽しみ、気晴らしとして」(30.1%)、「友人・仲間との交流として」(25.3%)の順となっている。

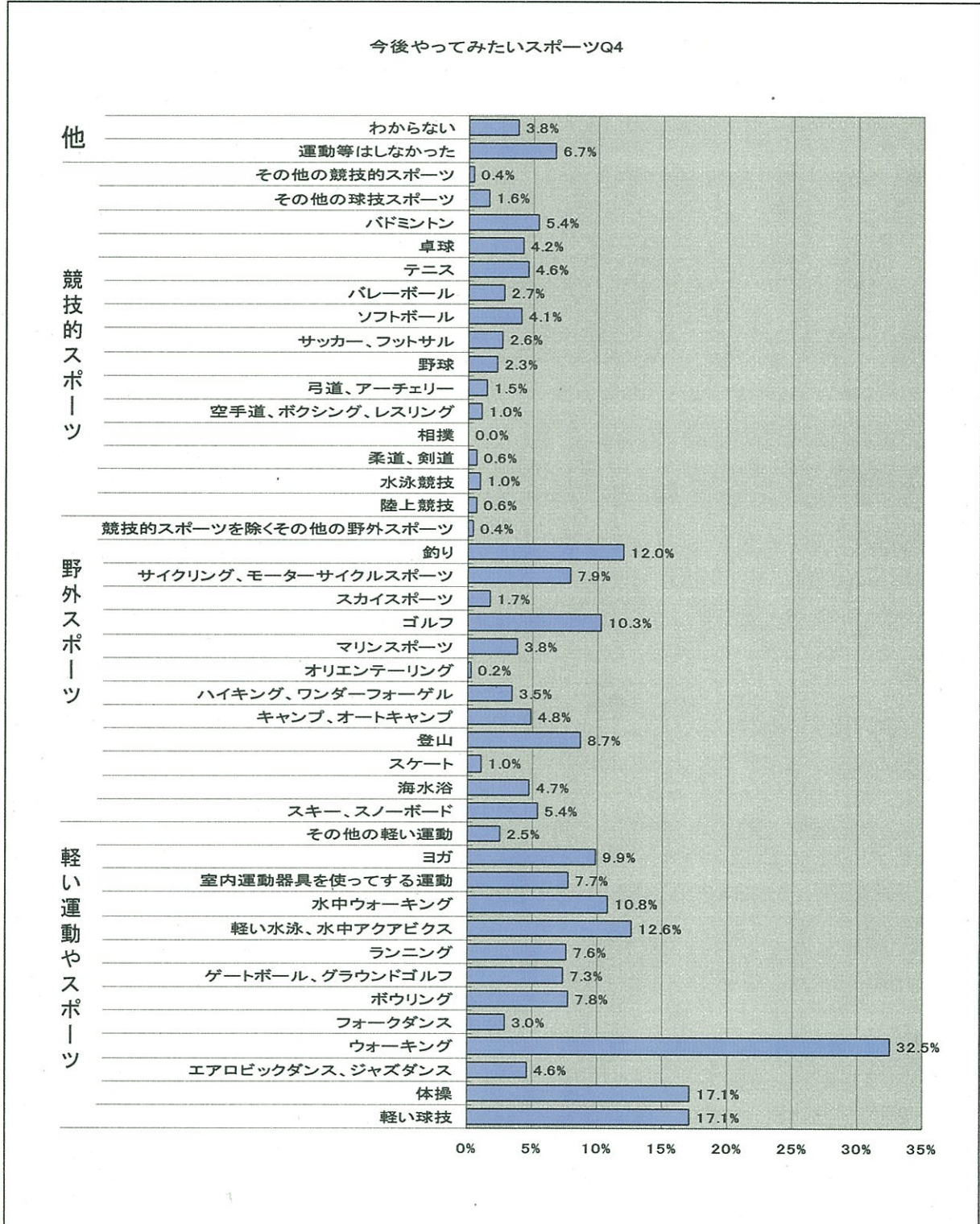
エ 運動・スポーツを行わなかった理由（複数回答）

「運動スポーツを行わなかった」は「わからない」と回答した人に対して、なぜ行わなかったか理由を聞いたところ、「仕事（家事・育児）が忙しくて時間がないから」との回答が43.9%と最も多く、以下「機会がなかった」(28.6%)、「特に理由はない」(26.1%)、「歳をとったから」(25.4%)の順となっている。

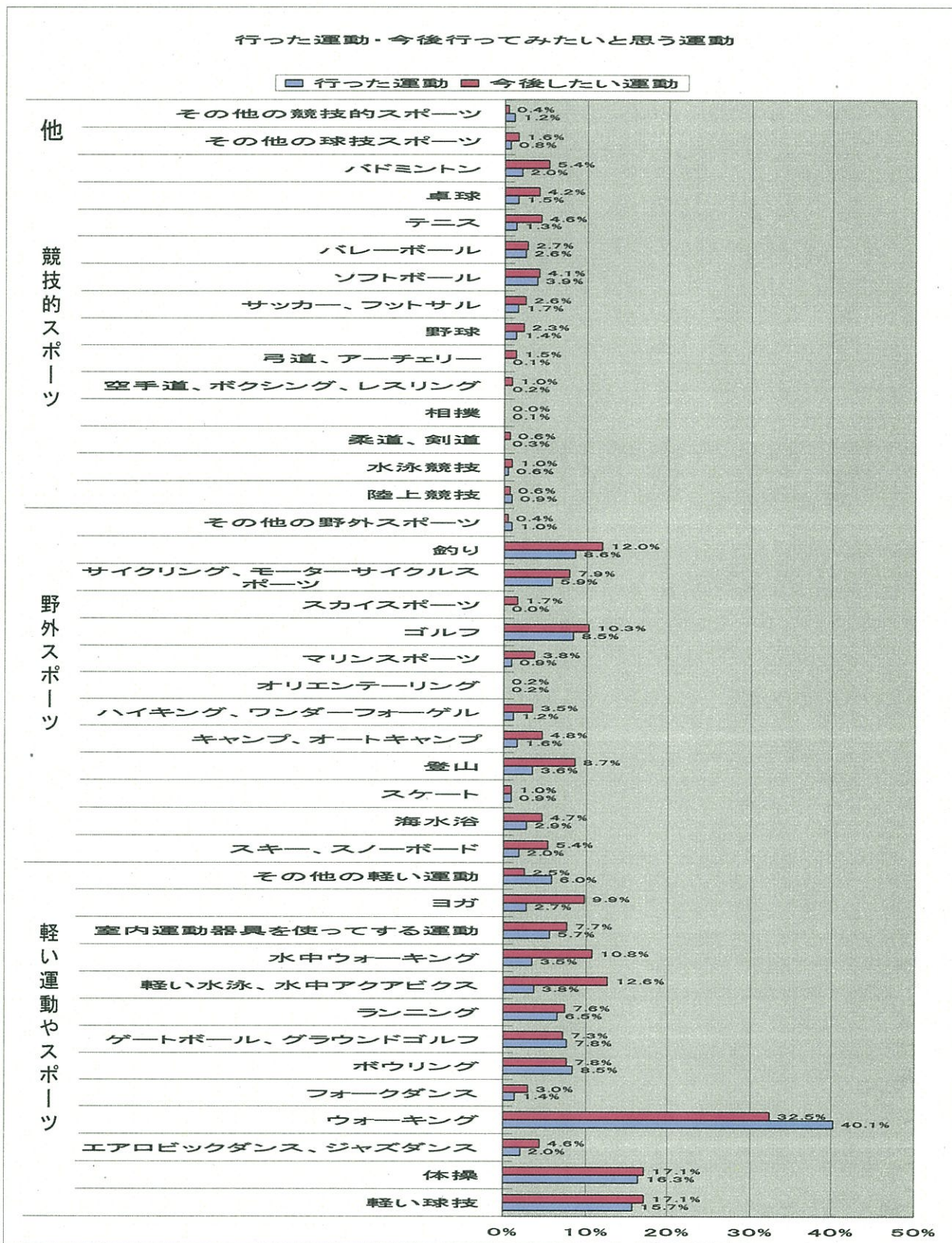


(2) 今後行ってみたい運動・スポーツ 【Q4】(複数回答)

現在行っているものを含めて、今後行ってみたい運動やスポーツを聞いたところ、「ウォーキング」との回答が 32.5%と最も多く、以下「軽い球技」(17.1%)、「体操」(17.1%)、「軽い水泳、水中アクアビクス」(12.6%)、「釣り」(12.0%)、「水中ウォーキング」(10.8%)、「ゴルフ」(10.3%)が上位となっている。

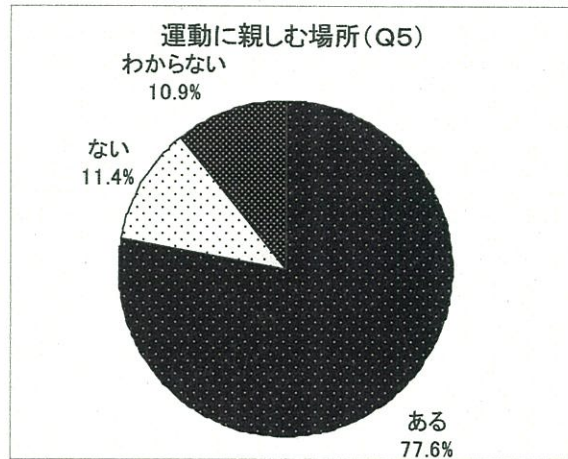
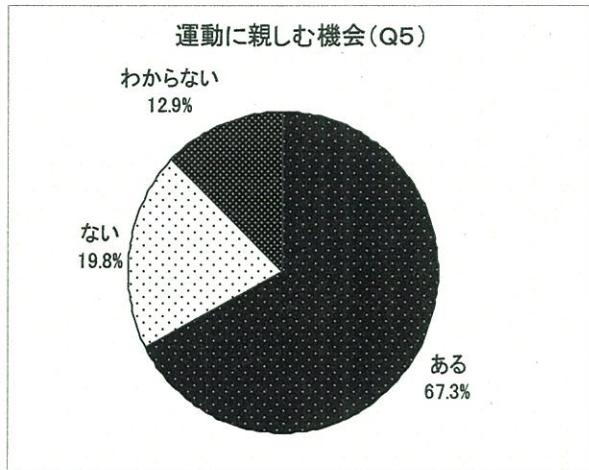


(3)「この1年間で行った運動・スポーツ」と「今後の行ってみたいと思う運動・スポーツ」の比較



(4) 運動やスポーツに親しむ機会や場所・施設 【Q5】

気軽に運動やスポーツに親しむ機会や場所・施設が身近にあるか聞いたところ、「機会がある」とする回答は67.3%、「場所や施設がある」とする回答は77.6%あった。



3 スポーツボランティアについて

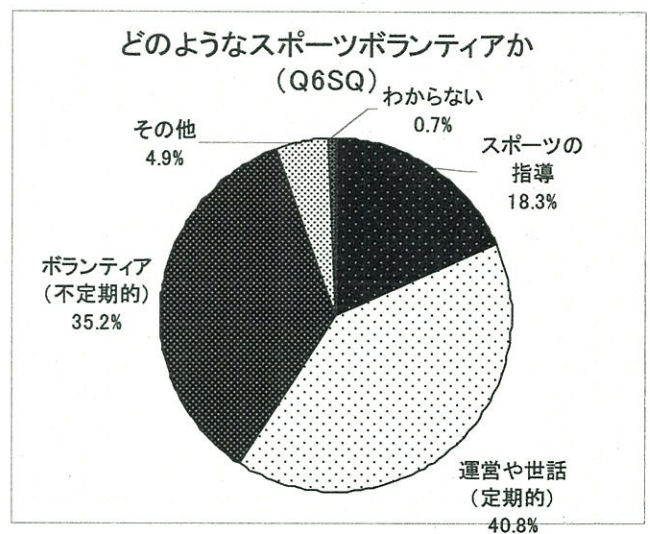
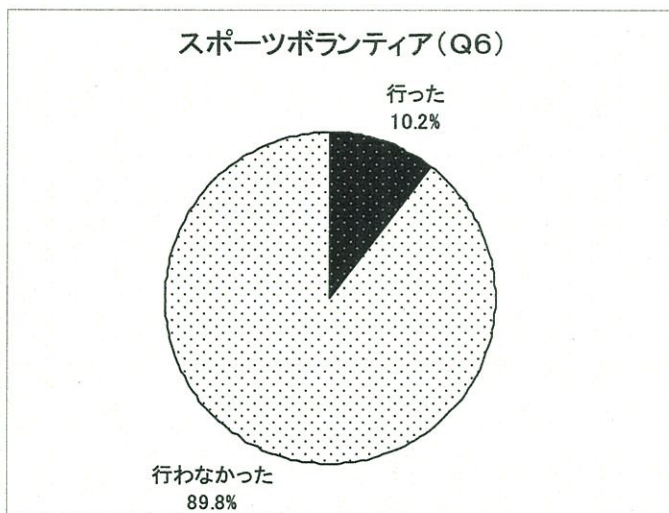
(1) 過去1年間のボランティア活動 【Q6】

ア ボランティアの活動状況

この1年くらいの中にスポーツに関するボランティア活動を行ったか尋ねたところ、「行った」とする回答が10.2%あった。

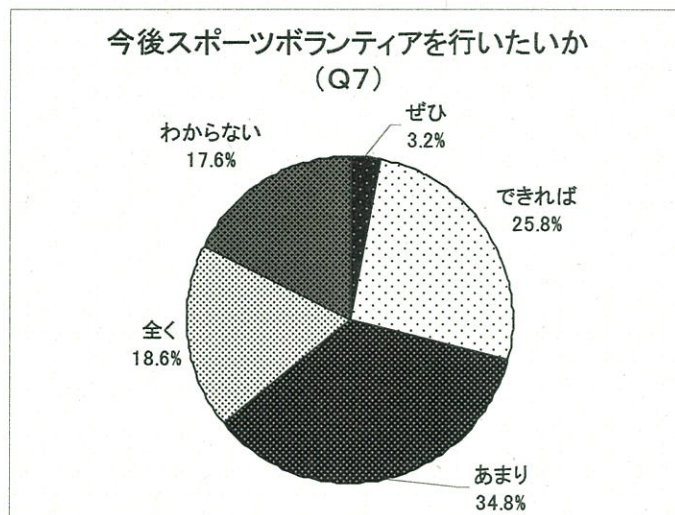
イ ボランティア活動の内容

ボランティア活動を行った人に対して、活動の内容を聞いたところ、「スポーツ活動などの運営や世話」との回答が40.8%と最も多く、以下「スポーツイベントのボランティア」(35.2%)、「スポーツの指導」(18.3%)の順となっている。



(2) 今後のボランティア活動の意向 【Q7】

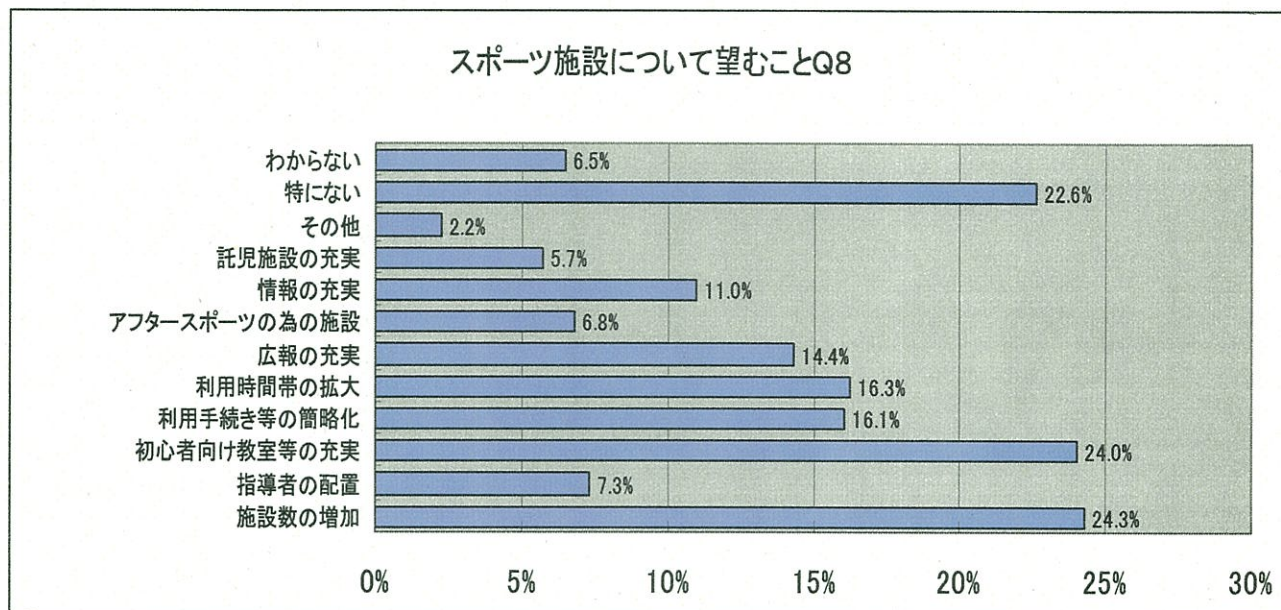
今後、スポーツに関するボランティア活動を行いたいかと聞いたところ、「ぜひ行いたい」(3.2%)と「できれば行いたい」(25.8%)を合わせると、29.0%が行いたいと回答している。



4 スポーツ施設について

(1) 公共スポーツ施設についての要望 【Q8】(複数回答)

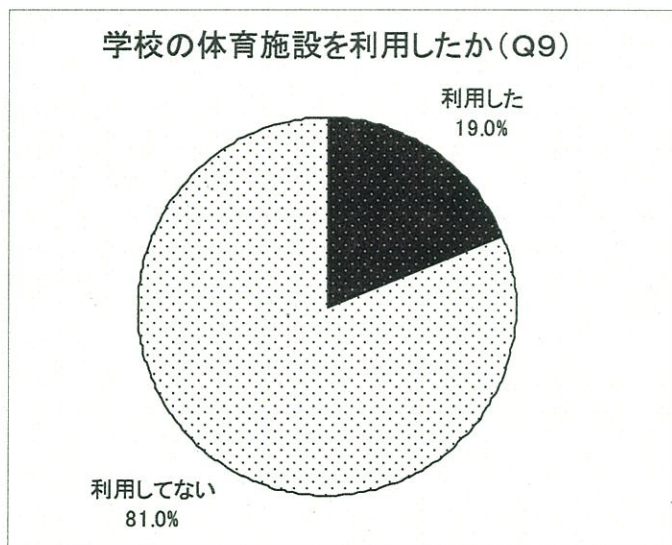
公共のスポーツ施設に何を求めるか聞いたところ、「施設数の増加」との回答が24.3%と最も多く、以下、「初心者向けの行事の充実」(24.0%)、「利用時間帯の拡大」(16.3%)「利用手続き等の簡略化」(16.1%)の順となっている。



(2) 学校の体育施設利用について 【Q9】

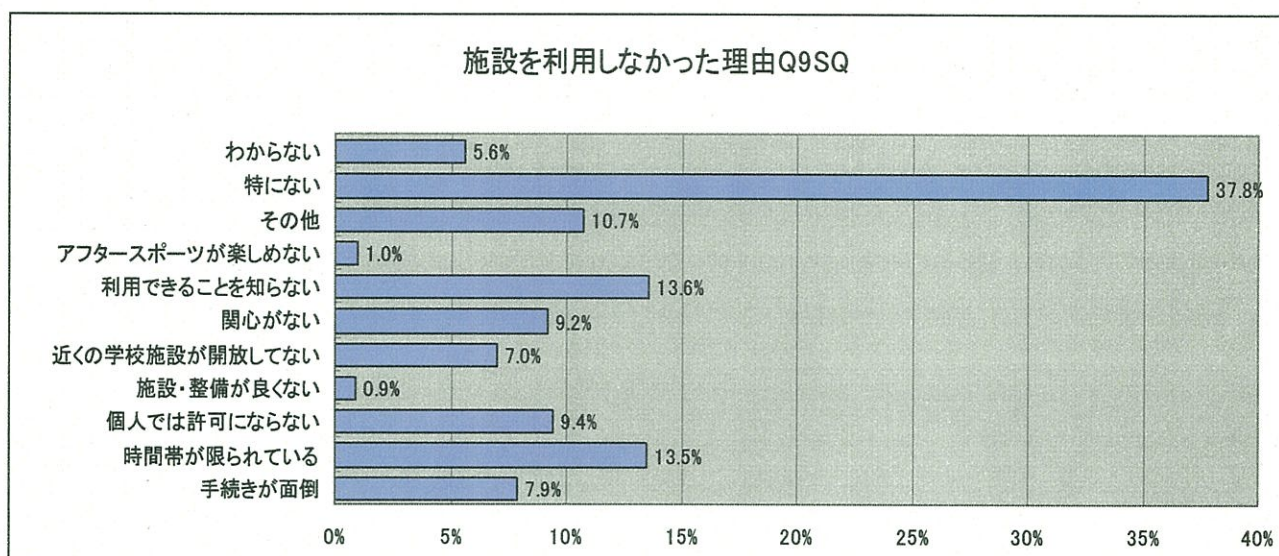
ア 利用状況

この1年間に小、中、高、大学など学校の体育施設（運動場、体育館、プールなど）を運動やスポーツのために利用したか聞いたところ、「利用した」とする回答は19.0%あった。



イ 利用しなかった理由（複数回答）

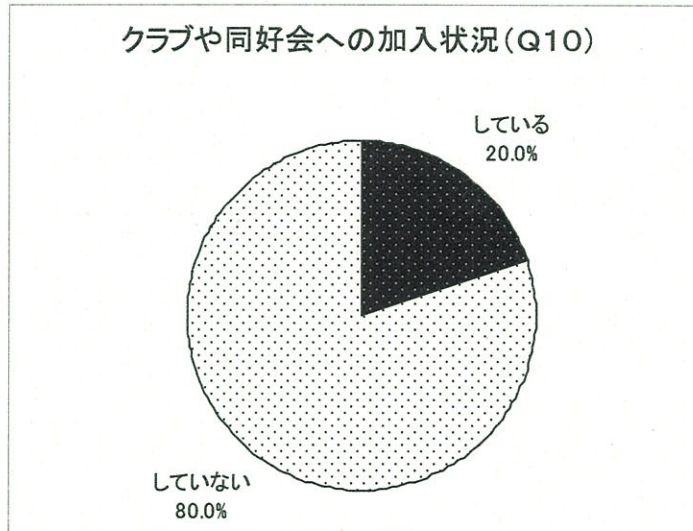
「利用しなかった」と回答した人に対して理由を聞いたところ、「特にない」との回答が37.8%と最も多く、以下、「利用できることを知らなかった」(13.5%)、「時間帯が限られており、利用したいときにできないから」(13.5%)の順となっている。



5 スポーツクラブ、同好会について 【Q10】

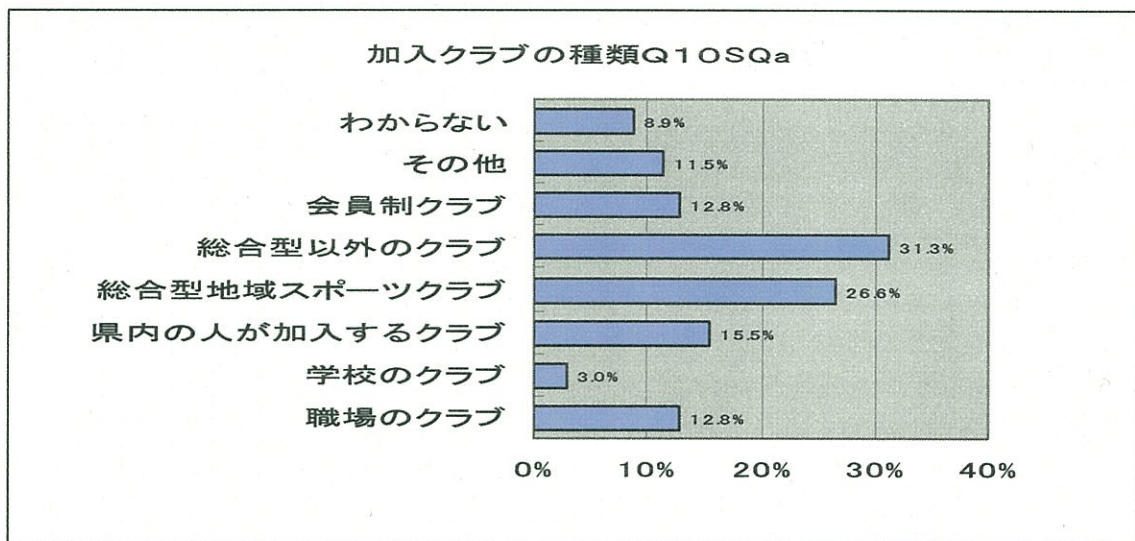
ア クラブ・同好会への加入状況

現在、運動やスポーツのクラブや同好会へ加入しているか聞いたところ、「加入している」とする回答は 20.0% だった。



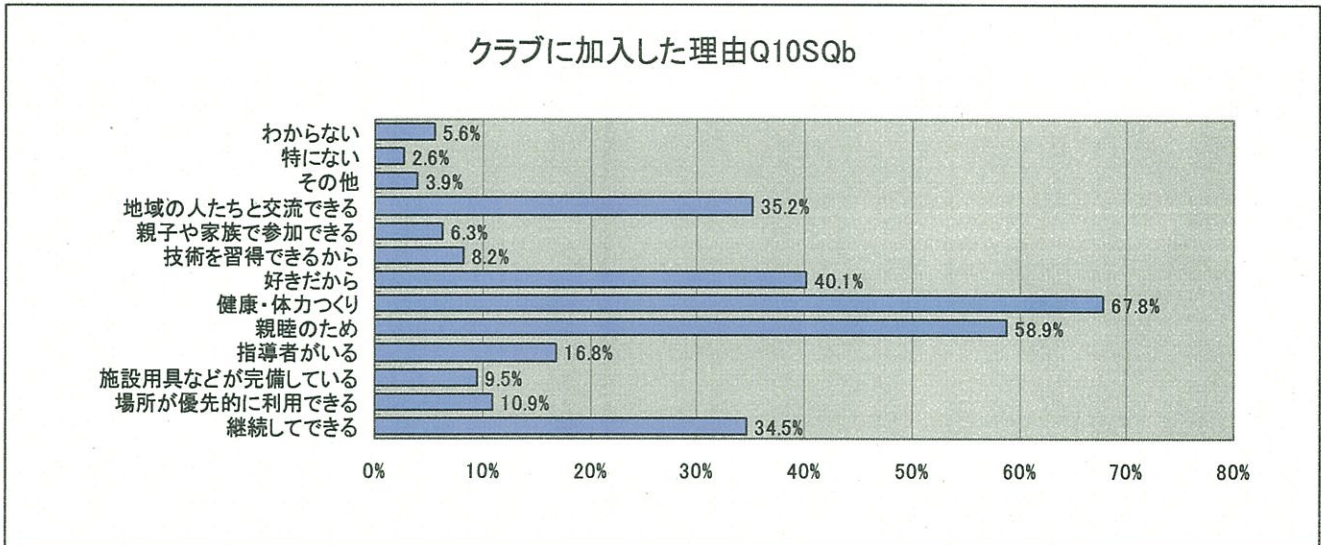
イ 加入しているクラブ・同好会の形態（複数回答）

「クラブ等に参加している」と回答した人に対してクラブ等の形態を聞いたところ、「同じ市町村内の人が加入する『総合型地域スポーツクラブ』以外のクラブや同好会」との回答が 31.3% と最も多く、以下「同じ市町村内の人が加入する『総合型地域スポーツクラブ』」（26.6%）、「県内の人が入るクラブや同好会」（15.5%）の順となっている。



ウ クラブ・同好会に加入の動機（複数回答）

「クラブ等に参加している」と回答した人に対して加入の動機を聞いたところ、「健康・体力づくりのため」との回答が 67.8%と最も多く、以下「親睦のため（仲間ができるから）」（58.9%）、「好きだから」（40.1%）の順となっている。

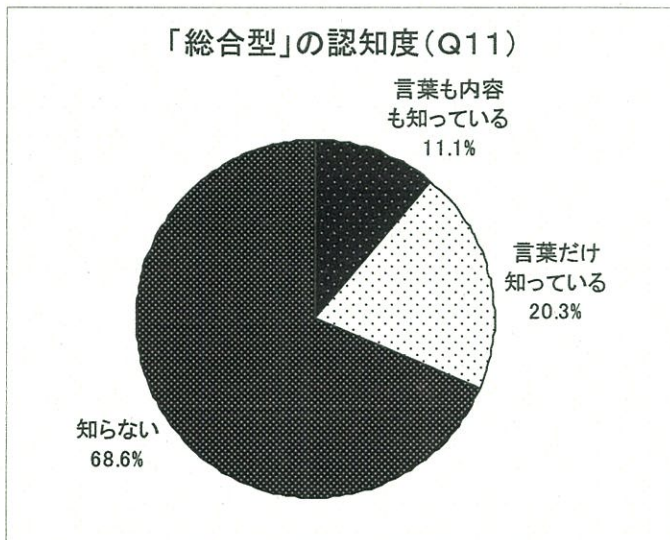


6 総合型スポーツクラブについて

(1) 総合型スポーツクラブ【Q11】

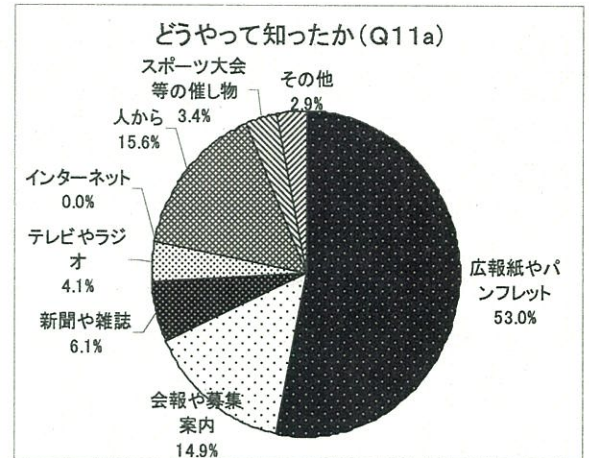
ア 総合型スポーツクラブの認知度

総合型スポーツクラブを知っているかと聞いたところ、「言葉も内容も知っている」（11.1%）と「言葉だけは知っている」（20.3%）を合わせると、31.4%が「知っている」と回答している。



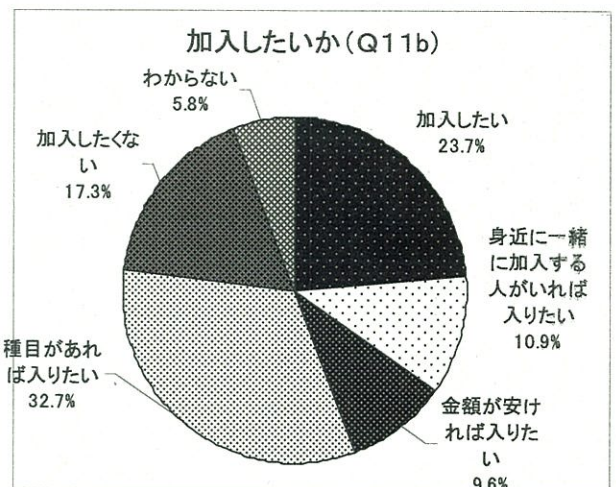
イ 総合型スポーツクラブを知った要因（複数回答）

「クラブを知っている」と回答した人に対してどうやって知ったのかを聞いたところ、「県や市町村の広報誌やパンフレット」との回答が53.0%と最も多く、以下「人から聞いた」（15.6%）、「総合型スポーツクラブの会報や募集案内」（14.9%）の順となっている。



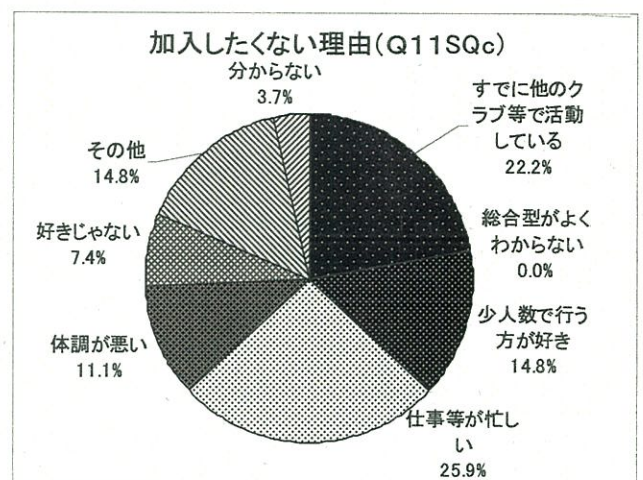
ウ 総合型スポーツクラブへの加入意向

「言葉も内容も知っている」と回答した人に対してクラブへ加入したいかを聞いたところ「自分がやりたい種目があれば加入したい」（32.7%）、「加入したい（既に加入している）」（23.7%）など合わせて計76.9%は、加入してもよいと回答している。



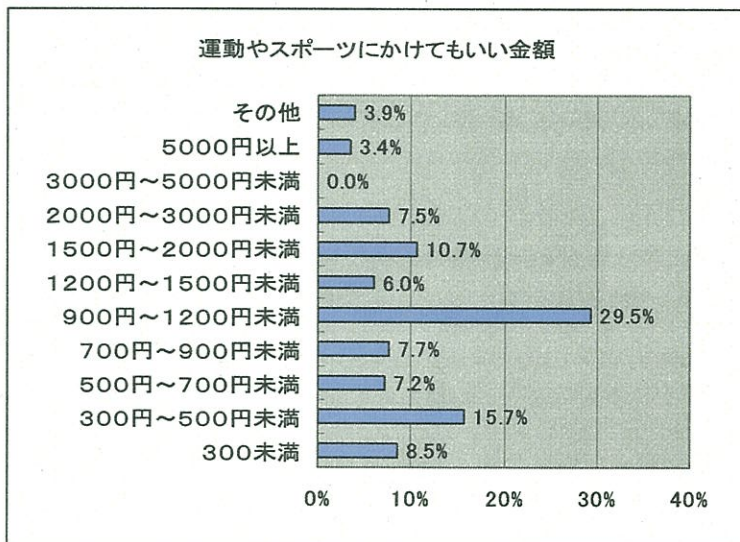
エ 加入したくない理由（複数回答）

ウの設問で「加入したくない」と回答した人に対して理由を聞いたところ、「仕事や家事に忙しいから」との回答が25.9%と最も多く、以下「既に他のクラブやグループで活動しているから」（22.2%）、「少人数で行う方が好き」（14.8%）、「体調が悪くて運動やスポーツができないから」（11.1%）、の順となっている。



(2) 運動やスポーツにかけても良い金額 (1ヶ月あたり) 【Q12】

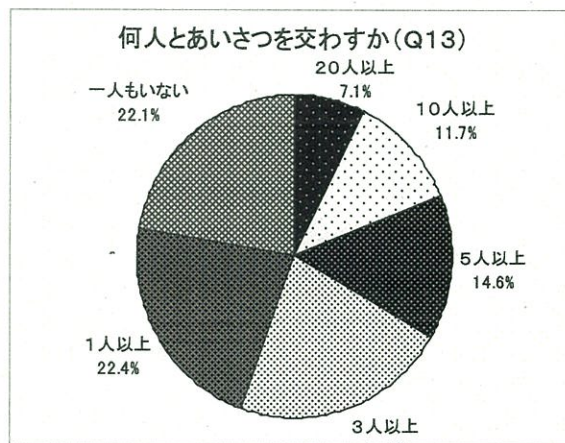
クラブの会費を含め1ヶ月あたり運動やスポーツにどれくらいまで費用をかけても良いかを聞いたところ、「900～1200円未満」との回答が29.5%と最も多く、以下「300円～500円未満」(15.7%)、「1500～2000円」(10.7%)、「700～900円未満」(7.7%)の順となっている。



7 地域コミュニティについて

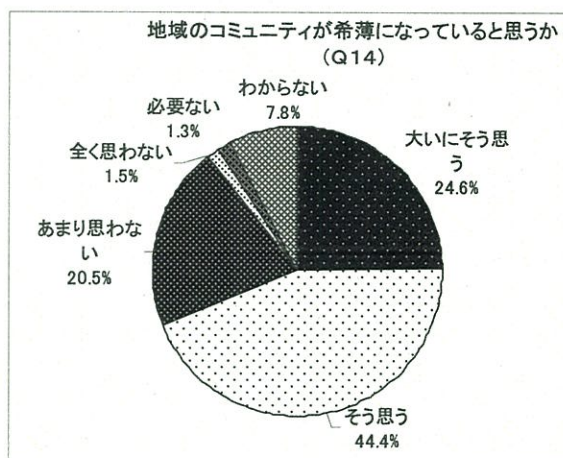
(1) あいさつや会話を交わしている地域の子どもたちの数 【Q13】

自分の地域の子どもたち(高校生以下)のうち、何人くらいとあいさつや会話を交わしているか聞いたところ、「1～2人」との回答が20.7%と最も多く、以下「1人もいない」(20.5%)、「3～4人」(20.4%)、「5人以上」(15.9%)、「5人以上」(13.5%)の順となっている。



(3) 地域のコミュニティの希薄化 【Q14】

地域のコミュニティが希薄になっているか聞いたところ、「大いにそう思う」(24.6%)と「そう思う」(44.4%)を合わせて、69.0%は「希薄になっている」と回答している。



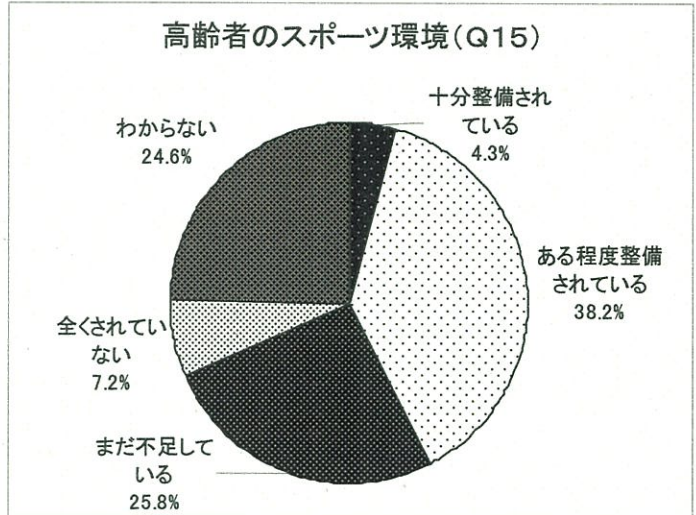
8 高齢者、障がい者のスポーツ環境について

(1) 高齢者のスポーツ環境 【Q15】

ア 現在の整備状況

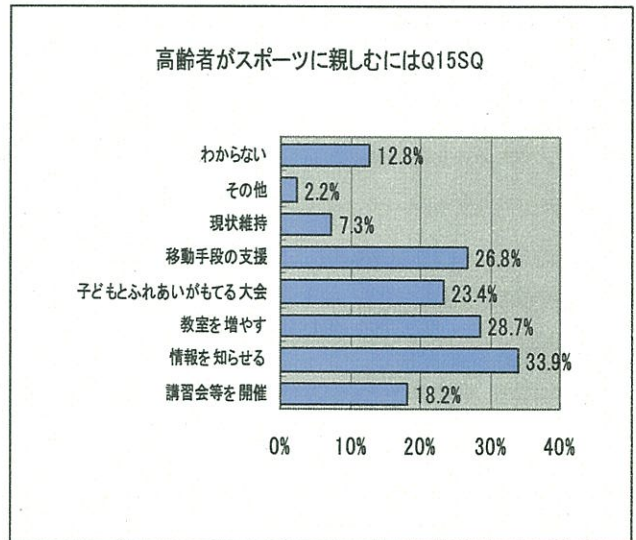
高齢者のスポーツ環境について聞いたところ、「十分整備されている」(4.3%)と「十分とは言えないが、ある程度整備されている」(38.2%)を合わせると、42.5%は整備されていると回答している。

逆に「全く整備されていない」(7.2%)と「整備されつつあるが、まだ不足している」(25.8%)を合わせると、33.0%は整備が不十分と回答している。



イ 高齢者がよりスポーツに親しむための方策（複数回答）

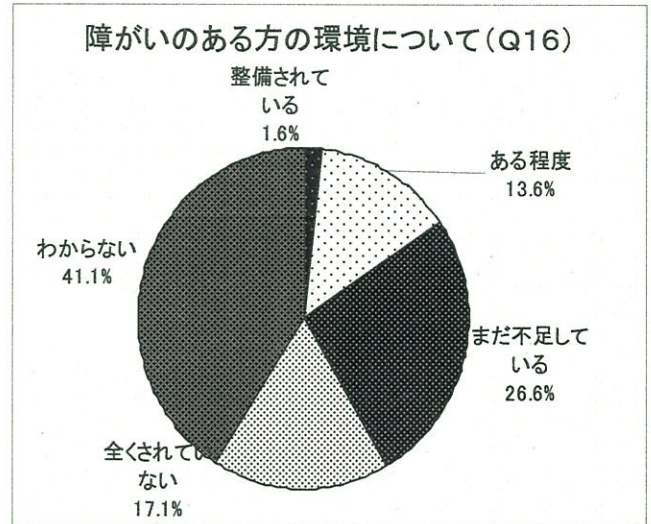
どうすればより多くの高齢者が運動やスポーツに親しむことができるかを聞いたところ、「地域で行われている高齢者向けのスポーツの情報を知らせたらよい」との回答が33.9%と最も多く、以下「高齢者向けのイベントやスポーツ教室を増やせばよい」(28.7%)、「運動やスポーツのできる場所への移動手段を支援すればよい」(26.8%)の順となっている。



(2) 障がい者のスポーツ環境 【Q16】

ア 現在の整備状況

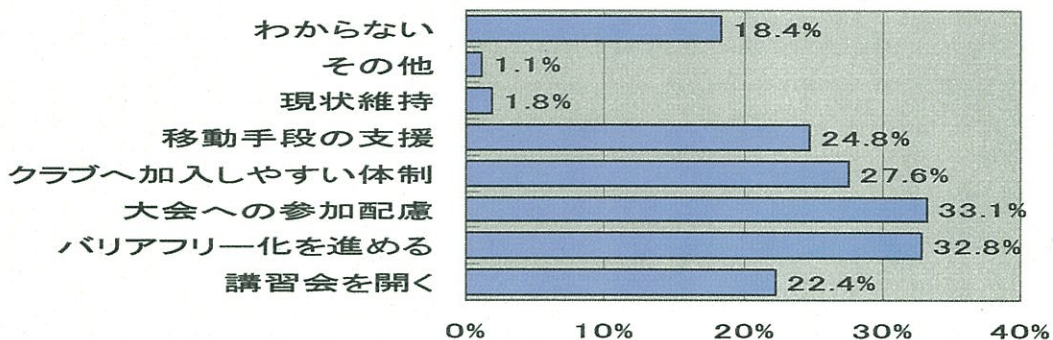
障がいのある方のスポーツ環境について聞いたところ、「十分整備されている」(1.6%)と「十分とは言えないが、ある程度整備されている」(13.6%)を合わせると、15.2%が整備されていると回答している。逆に「全く整備されていない」(17.1%)と「整備されつつあるが、まだ不足している」(26.6%)を合わせると、43.7%が整備されていないと回答している。また、「わからない」と回答している人が41.1%となっている。



イ 障がいのある方がよりスポーツに親しむための方策(複数回答)

どうすればより多くの障がいのある方が運動やスポーツに親しむことができるかを聞いたところ、「地域で行われているスポーツ大会等に障がいのある方も参加できるよう配慮すればよい」との回答が33.1%と最も多く、以下「障がいのある方がもっと利用しやすいよう、体育施設等のバリアフリー化を進めればよい」(32.8%)、「スポーツクラブ等が障がいのある方も加入しやすいような体制を整えればよい」(27.6%)の順となっている。

障がいのある方がスポーツに親しむにはQ16SQ

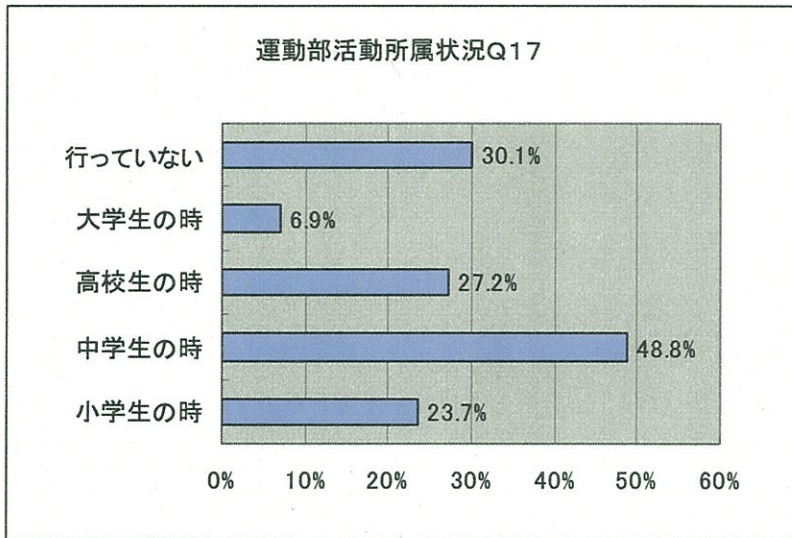


9 運動部活動について

(1) 運動部活動の経験 【Q17】

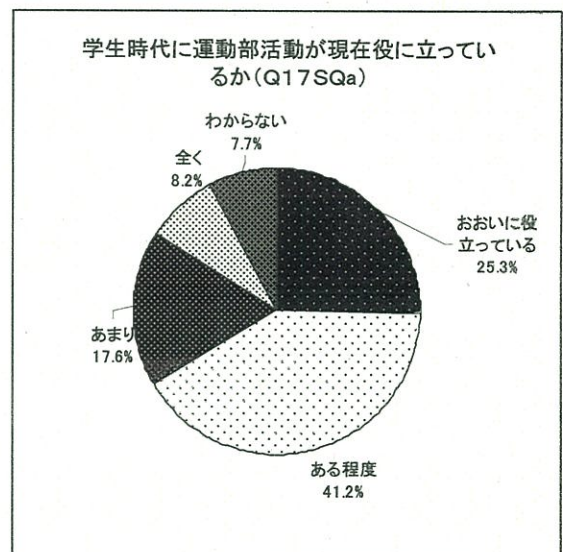
ア 運動部活動の経験

小学生から大学生の間に運動部活動に所属し継続的にスポーツを行った経験があるかと聞いたところ、69.9%が「経験がある」と回答している。各段階ごとの経験率は、小学校 23.7%、中学校 48.8%、高校生 27.2%、大学生 6.9%となっている。(複数回答)



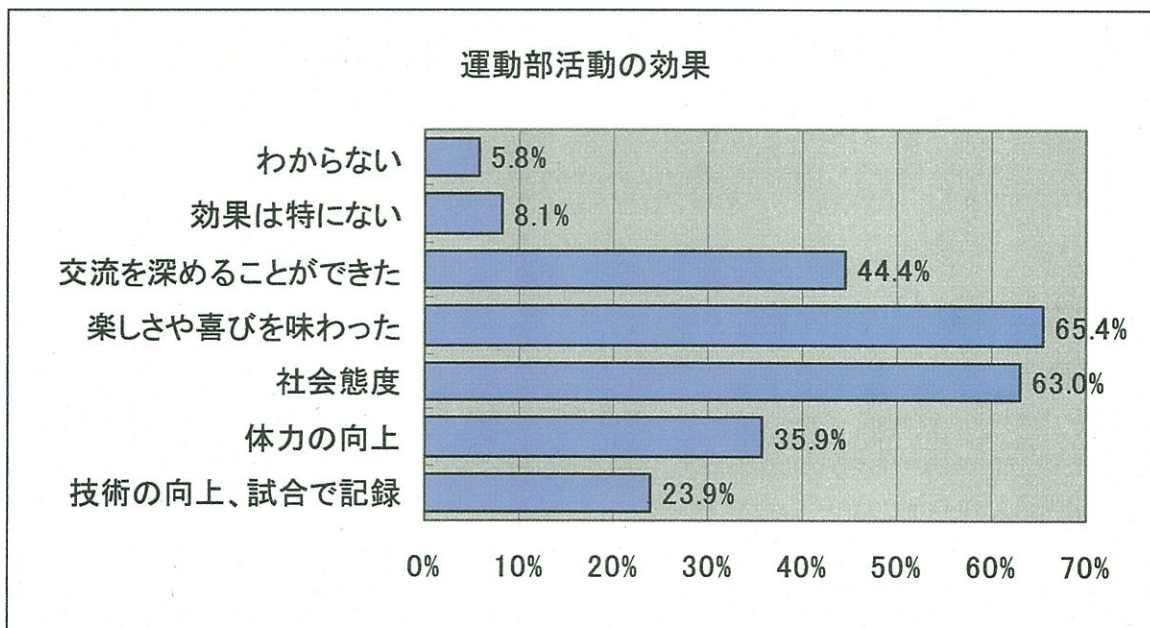
イ 運動部活動の貢献度

「運動部活動に所属した」と回答した人に対して所属していたことが現在役に立っているかを聞いたところ、「大いに役立っていると思う」(25.3%)と「ある程度役立っていると思う」(41.2%)を合わせると、66.5%が役立っていると回答している。



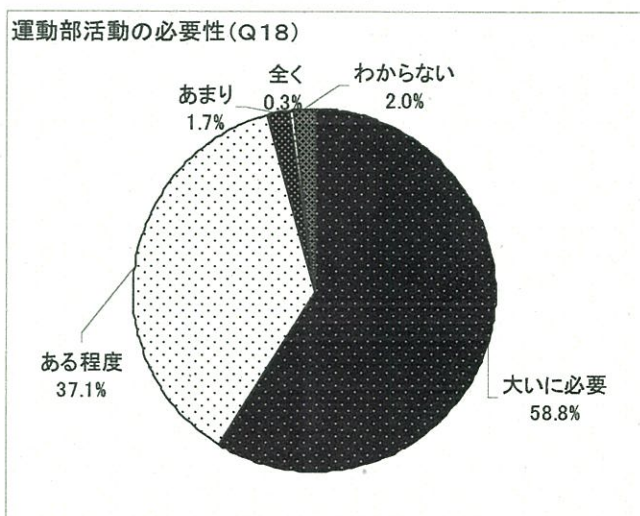
ウ 運動部活動の効果（複数回答）

「運動部活動に所属した」と回答した人に対してその効果を聞いたところ、「スポーツの楽しさや喜びを味わうことができたこと」との回答が65.4%と最も多く、以下「ルールやマナーを守るなど、社会的態度が身についたこと」（63.0%）、「先生や児童生徒（学生）同士の交流を深めることができたこと」（44.4%）の順となっている。



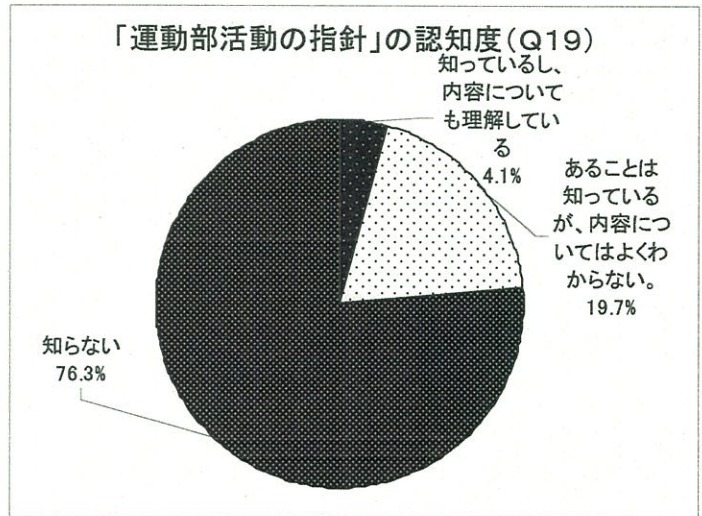
(2) 運動部活動の必要性 【Q18】

運動部活動の必要性について聞いたところ、「大いに必要だと思う」（58.8%）と「ある程度必要だと思う」（37.1%）を合わせると、95.9%は必要と回答している。



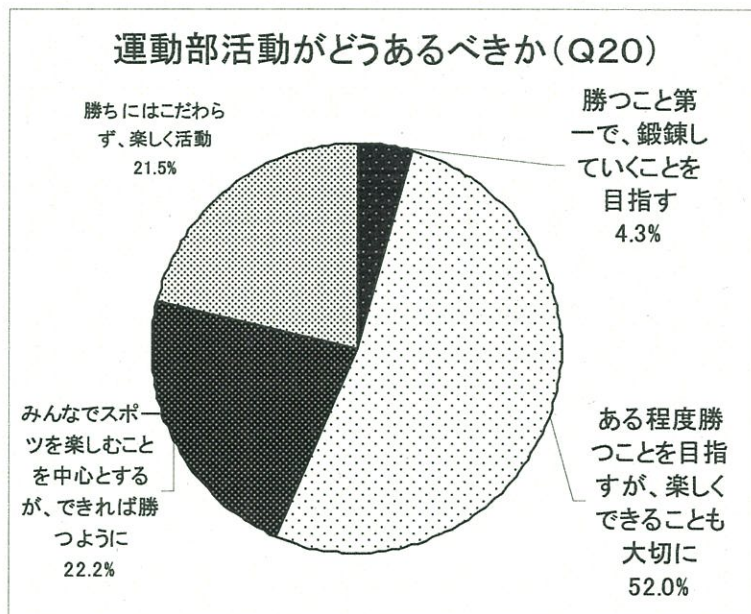
(3) 運動部活動指針について 【Q19】

熊本県教育委員会や各市町村が策定している「運動部活動の指針」について聞いたところ、「知らない」が(76.3%)を占め、「知っており内容も理解している」(4.1%)、「知っているが内容はよくわからない」(19.7%)を大きく上回った。



(4) 運動部活動のあり方 【Q20】

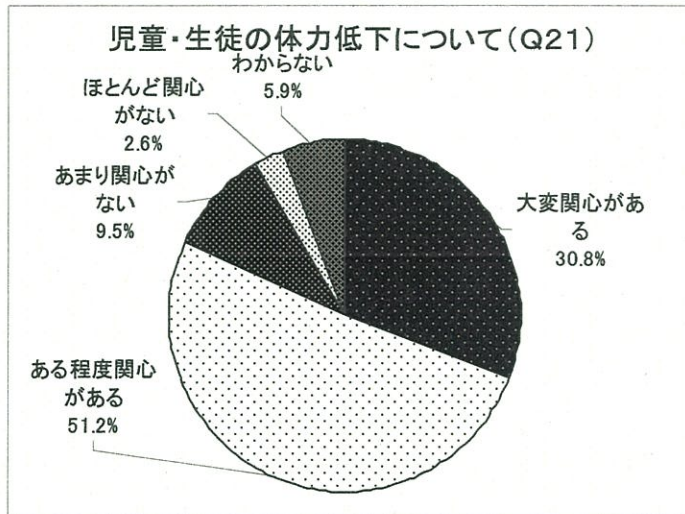
これからの運動部活動はどうあるべきかを聞いたところ、「ある程度勝つことを目指すが、楽しくできることも大切にしてほしい」との回答が52.0%と最も多く、以下「みんなで楽しむことを中心にするが、できれば勝つようにしてほしい」(22.2%)「勝つことにはこだわらず、みんなで楽しく活動できるようにしてほしい」(21.5%)、の順となっている。



10 児童生徒の体力低下について

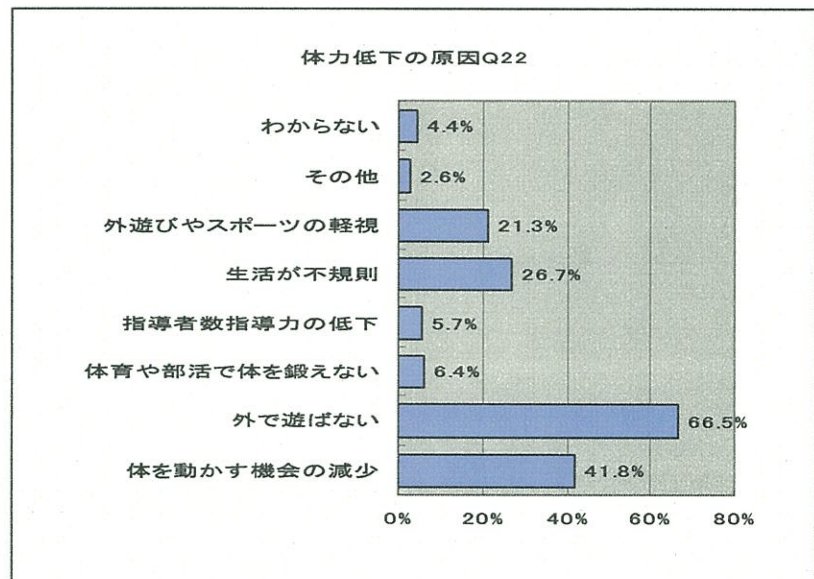
(1) 児童生徒の体力低下への関心 【Q21】

児童生徒の体力低下に関心があるか聞いたところ、「大変関心がある」(30.8%)と「ある程度関心がある」(51.2%)を合わせると、82.0%は関心があると回答している。〔



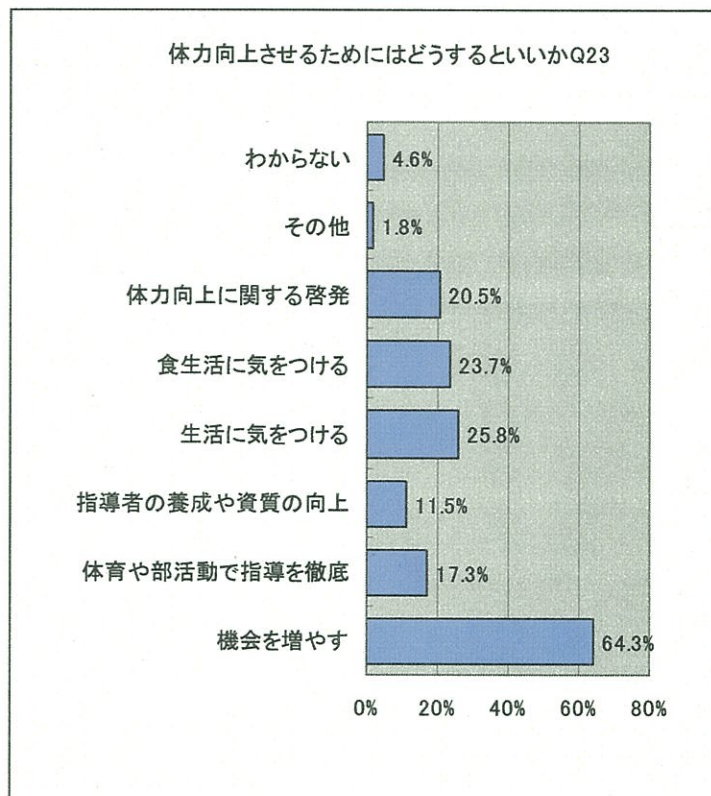
(2) 児童生徒の体力低下の原因 【Q22】(複数回答)

児童生徒の体力低下の原因を聞いたところ、「室内で遊ぶことが多くなり、外で遊ぶことが少なくなった」との回答が66.5%と最も多く、以下「生活の利便化に伴い、日常生活で体を動かす機会が少なくなった」(41.8%)、「偏った食事や睡眠不足など、子どもの生活が不規則になった」(26.7%)の順となっている。



(3) 児童生徒の体力向上策 【Q23】(複数回答)

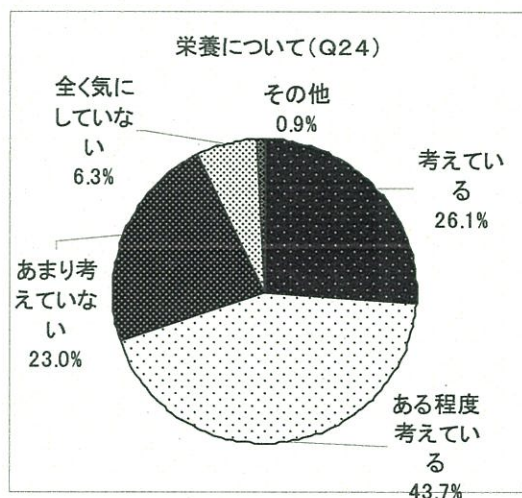
児童生徒の体力を向上させるためには、どのようにしたらいいか聞いたところ、「学校や日常生活の中で、運動・スポーツに親しむ機会を増やすようにする」との回答が64.3%と最も多く、以下「睡眠、休養を適切にとるなど、生活に特に気をつけさせる」(25.8%)、「栄養に偏りがないように、食生活に気をつけさせる」(23.7%)の順となっている。



1.1 スポーツと栄養について

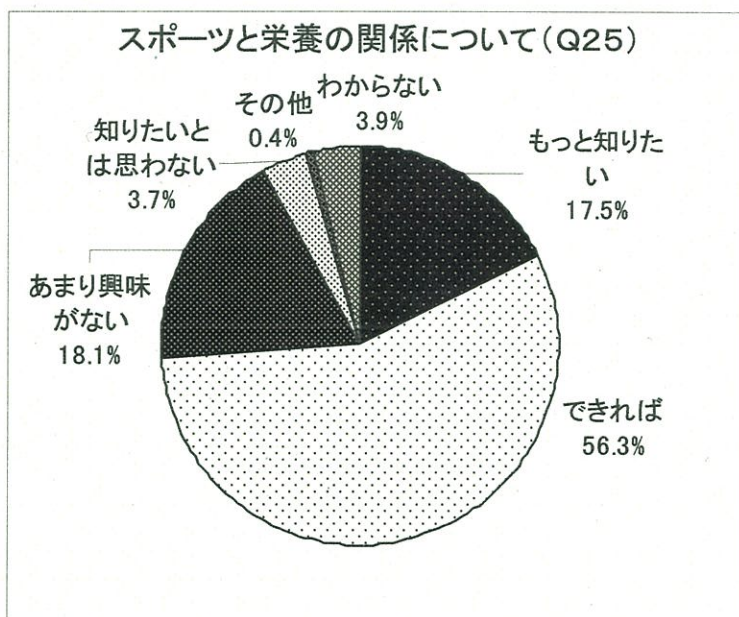
(1) 運動やスポーツを行う際の栄養への配慮 【Q24】

運動やスポーツを行うにあたって、栄養のことも考えているか聞いたところ、「考えている」(24.0%)と「ある程度考えている」(41.0%)を合わせると、65%は配慮していると回答している。



(2) 運動やスポーツと栄養との関係について 【Q25】

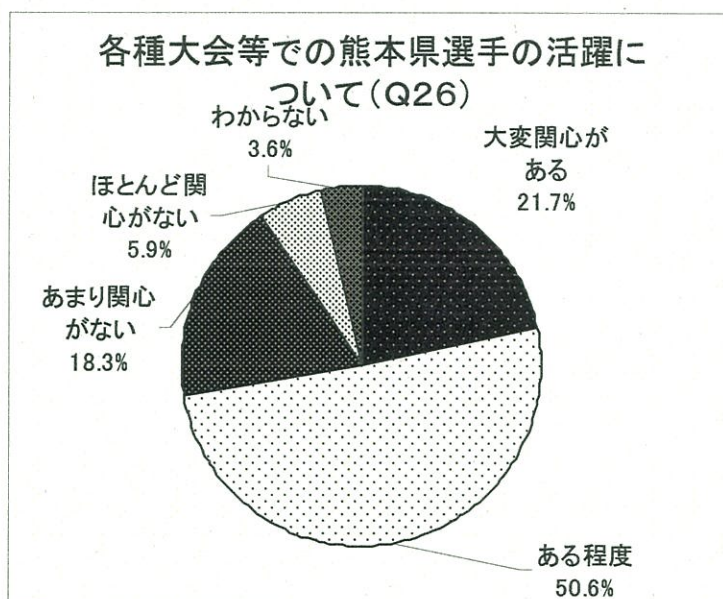
運動やスポーツと栄養との関係について知りたいか聞いたところ、「もっと知りたい」(17.5%)と「できれば知りたい」(56.3%)を合わせると、73.8%は知りたいと回答している。



12 競技スポーツの振興について

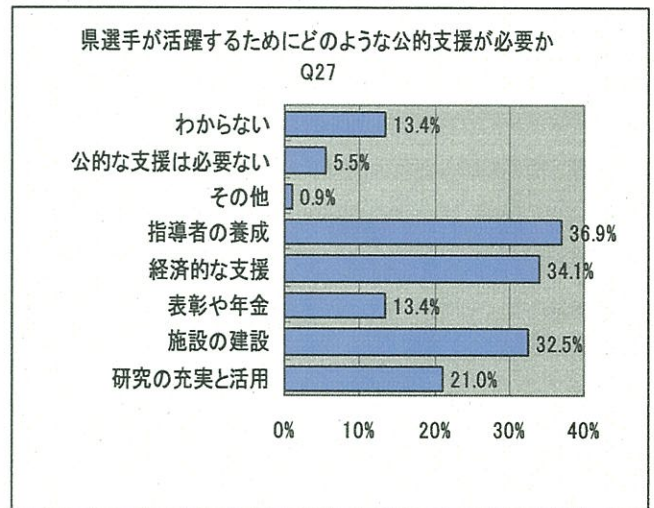
(1) 熊本県選手の活躍への関心 【Q26】

熊本県選手の活躍への関心について聞いたところ、「大変関心がある」(20.3%)と「ある程度関心がある」(47.3%)を合わせると、67.6%は関心があると回答している。



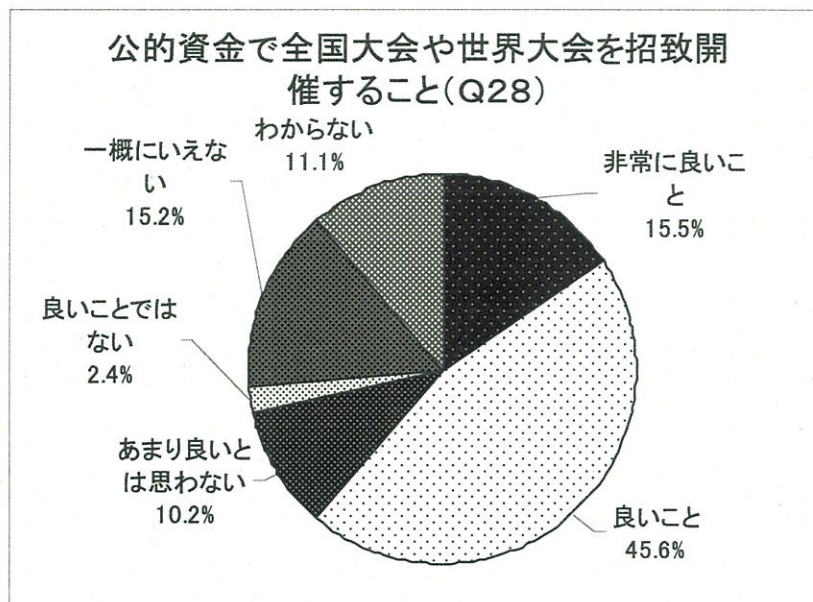
(2) 県選手が活躍するための公的援助について 【Q27】(複数回答)

本県出身選手が大会で活躍するための公的援助について何をすればよいか聞いたところ、「コーチ、トレーナーなど指導者の育成を図る」との回答が36.9%と最も多く、以下「選手のトレーニングや海外遠征などに経済的援助を行う」(34.1%)、「国や県などが施設の充実したトレーニング施設をつくる」(32.5%)の順となっている。



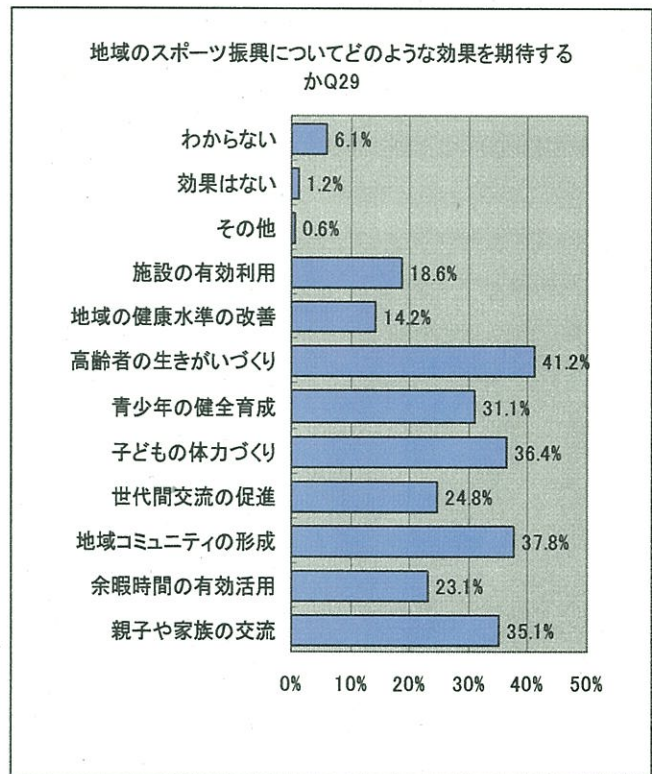
(3) 全国大会等の招致開催について 【Q28】

ある程度公的資金をかけて、全国大会や世界選手権などを招致開催することについて聞いたところ、「非常に良いことである」(14.2%)と「良いことである」(42.0%)を合わせると、56.2%は肯定的に回答している。「良いことではない」(2.2%)と「あまり良いことではない」(9.4%)を合わせると、否定的な回答は11.6%と少ない。



1 3 地域スポーツ振興の効果について 【Q29】（複数回答）

地域のスポーツ振興について、どのような効果を期待するか聞いたところ、「高齢者の生きがいつくり」との回答が41.2%と最も多く、以下「地域コミュニティの形成」（37.8%）、「子どもの体力づくり」（36.4%）、「親子や家族の交流」（35.1%）の順となっている。



1 4 スポーツ振興策への要望について 【Q30】（複数回答）

スポーツをもっと振興させるために、国や県または市町村に今後どのようなことに力を入れてもらいたいか聞いたところ、「各種スポーツ行事・大会・教室の開催」との回答が28.4%と最も多く、以下「各年齢層にあったスポーツの開発普及」（27.6%）、「地域のクラブやサークルの育成」（25.7%）、「学校体育施設の開放・整備」（22.8%）「スポーツに関する広報活動」（20.8%）、の順となっている。

